



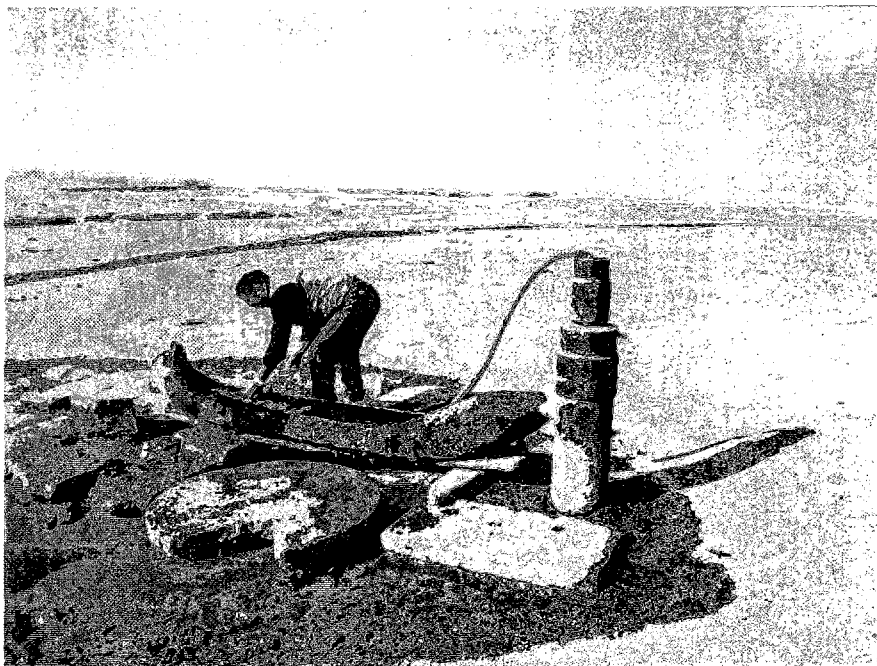
コンクリートフェンス浅井戸。深さは約30m。約5mから約30mの深さまで直径15cmの鋼管フィルターが挿入されている。かつては家畜が引く手動式ポンプが設置されていたが現在は手汲み井戸になっている（ウブルハンガイ県タラクト・ソム）。



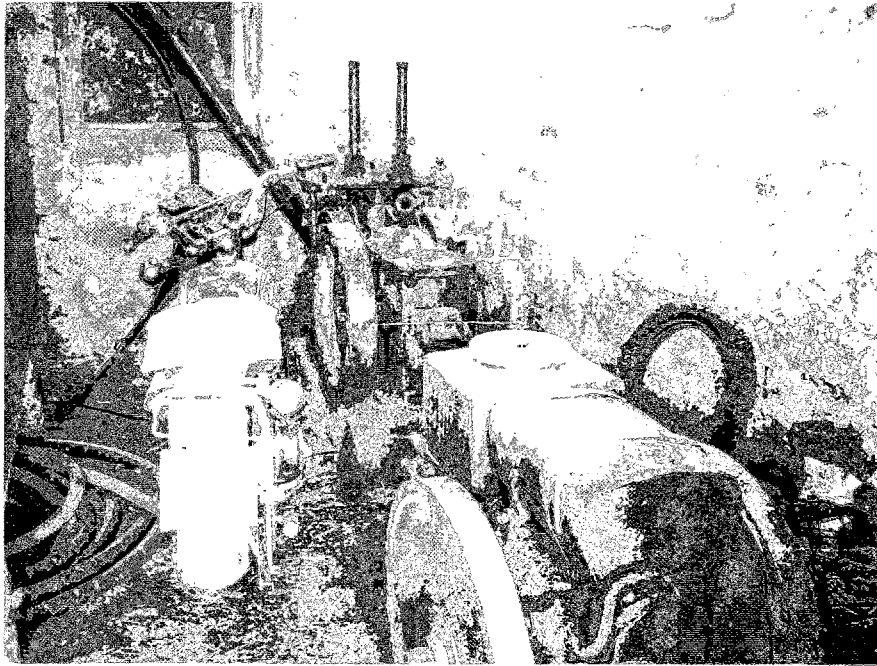
機械式井戸の跡地。ポンプ小屋やポンプは撤去され井戸を覆う箱がかぶせられている。旧ソ連が設置したポンプが放置されている（ドンドゴビ県）。



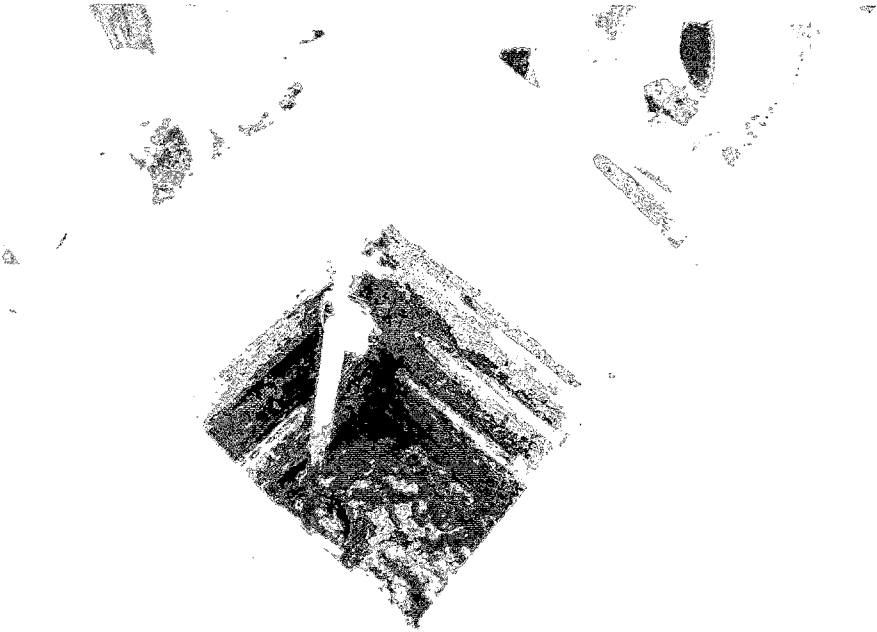
機械式井戸のポンプ小屋と家畜用の水桶（長さ9m）。ポンプは故障しており、水桶へは流れていない（ドンドゴビ県）。



自噴している機械式井戸と家畜用水桶。自噴量は毎分20ℓ程度。電気伝導度は42.4mS/m、水温6.1℃、pH 8.68である（ドンドゴビ県）



機械式井戸ポンプ小屋の内部。旧ソ連の設置したエンジンとポンプがあるが両者をつなぐベルトは外されており、井戸は運転が不可能な状態である（ドンドゴビ県）。



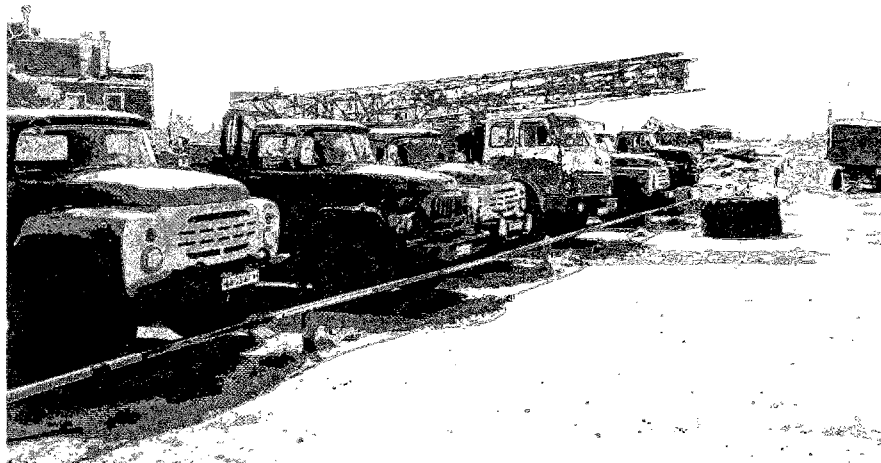
木枠の手掘り浅井戸。井戸の深さは5～6m、地下水位は1.5mである。金属製やゴム製のバケツで1回あたり8～10ℓの水を汲み上げ家畜に給水している（ドンドゴビ県）。



この浅井戸では1日2,000頭の家畜に給水しているという（写真はカシミヤヤギ）。給水は長時間の重労働である。水質は電気伝導度65.1mS/m、pH8.53、水温11.2°Cを示した。



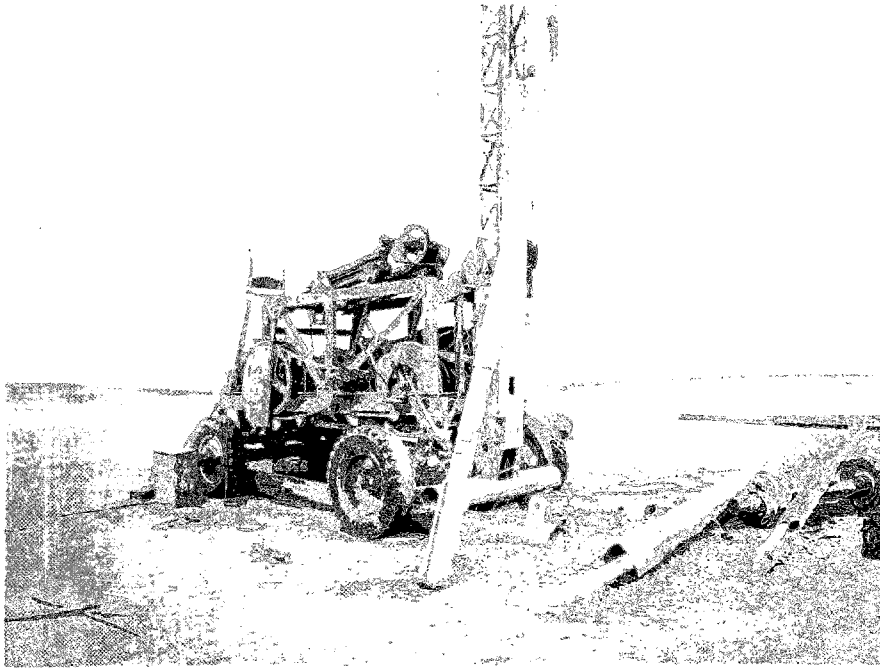
機械式井戸の自噴。ドルノゴビ県サインシャンドの北部には白亜系の砂岩に賦存する被圧地下水が広い範囲で自噴している。電気伝導度153.3 mS/m、pH 8.82、水温8.4を示す。



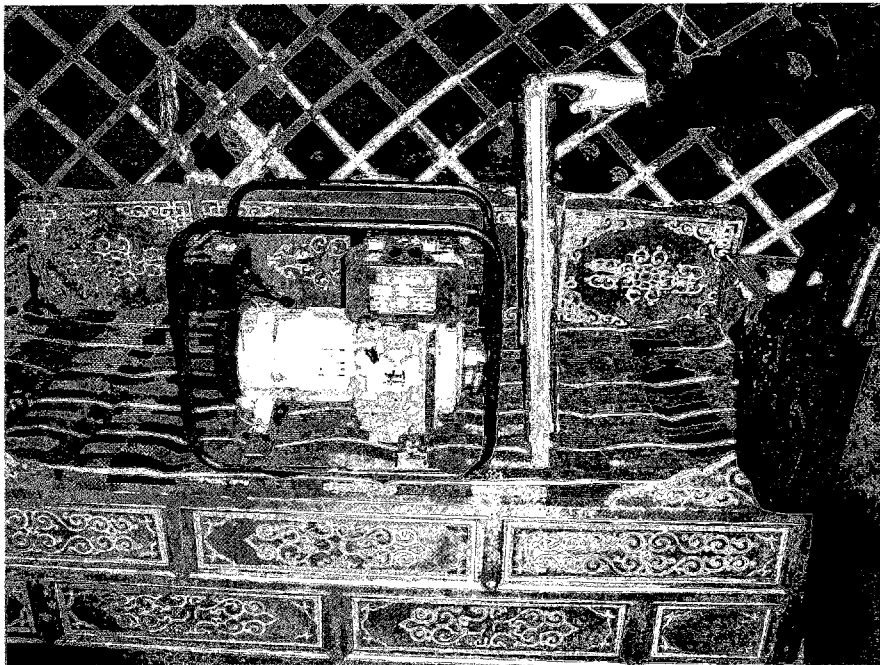
ドルノゴビ県ウスジューラグチュ井戸掘削会社のトラックマウント掘削機とトラック類。掘削機はロシア製であり、老朽化が進んでいるが整備状況は比較的良好である。掘削機はURB-3AM。



同社の保有するトラック搭載型掘削機UGB-50（ロシア製）。掘削直径8～10インチで50mまで掘削可能。調査ボーリングにも使用される。



ウランバートル郊外のモンゴル水供給支援センターで稼働中のパーカッション掘削機。支援センターではこの掘削機により数々のポンプ実験用井戸を掘削している。



牧民が携帯できる小型・軽量の発電器と水中モーターポンプ。これらのポンプ類の性能と価格、適用性、維持管理費、取扱方法の教育などが検討課題である。



10年前に破損して使用不能になった井戸の周辺。使われなくなって10年が経過した現時点でも植生は回復していない。



食糧・農牧省次官と事前調査団長による実施細則（S/W）へのサイン